

# 令和元年度 学力向上プラン

学校名 中央区立月島第三小学校

## 学校の教育目標

・よく考える子      ・心ゆたかな子      ・健康な子
---------------------------------

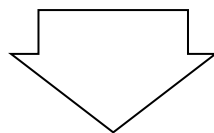
## 学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

・各教科等の学習が横断的・総合的に進むよう工夫するとともに、基礎的・基本的な内容の定着を図るため、年間指導計画や指導方法の改善に努め、問題解決的な学習や自然体験、交流活動などを通し、思考力・判断力・表現力等を育成する。
---

平成30年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童の学力の課題	主な要因
国語	話したり、聞いたりする力は身に付いているが、書くことでは、決められた文字数で文章を書くことや、与えられた情報を読み取り、自分の意見を明らかにして文章を書くことに課題のある児童がいる。	伝えたい内容を絞ったり、要約して書いたりする力が身に付いていないことや事柄の順序や段落相互の関係に注意して文章を構成する力が不十分である。
算数	算数科の基礎的・基本的な知識や技能は習得できている。一方で、これらの力を活用して、題意を捉え、立式し、問題解決を図っていくことに課題がある。	問われていることを言い換えたり、図式化したりする力が不十分である。日常生活における算数的な活動が十分ではない。
社会	資料から取り出した情報を関連付け、課題を読み取ったり、推論したりすることができる。調べたことや分かったことをもとに自分の考えを表現する力に課題がある。	それぞれの情報のもつ意味を自分の日常生活と結びつけて考えることを苦手としている。体験や経験の不足も関係している。
理科	物質、エネルギーの領域に関心が高く、自然現象について基礎的な理解ができている。一方、観察・実験をする時の器具の使い方や条件設定、考察の仕方に課題がある。	植物や昆虫にふれ合う機会が少なかったり、それらに興味・関心をもつ体験や経験も不十分であったりすることが考えられる。校内においても観察についての意図的な働きかけや取組は十分とはいえない。
体育	体力テストの結果から特に全身持久力、投力の面での改善が必要である。器具や用具を使う運動というよりも自分の体をうまく動かしたり操作したりという面で課題がある。	それぞれの運動経験や生活習慣といった個人差が大きく影響している。児童数増加による外遊びの機会が制限されていることもある。マイスクールスポーツの縄跳びを年間取り組んできたが、まだ体力向上に結びつくまでに至っていない。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴く態度を重視し、体全体で傾聴する姿勢を身に付けさせる。学習用具の準備やノートのとり方など集中して学習に取り組める習慣を身に付けさせる。</li> <li>・都学力調査におけるA・B問題の正答率、都平均以上を目指す。</li> </ul>
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人が課題に向き合い、自力で取り組もうとする課題や発問を考えると同時に、ペアやグループでの学び合いが効果的になるような学習展開を設定する。</li> <li>・問題解決的な学習や体験的な学習を単元の目標に応じて意図的に設定する。</li> <li>・都学力調査におけるA・B問題の正答率、都平均以上を目指す。</li> </ul>
③ 教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や作業の手順を明確に示し、授業におけるゴールを児童がイメージできるような授業を行う。児童個々の課題を明確にするとともにそれぞれに応じた支援方法を持ち、実践し、検証する。</li> <li>・保護者・児童のアンケートで、問題解決的な学習、自然体験、交流学习に対する肯定的な評価が80%以上になることを目指す。</li> </ul>
④ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での学習習慣を身に付けさせるために、家庭に対して宿題チェックや学習用具の準備をお願いするとともに、児童と学習についての会話を増やしたり、苦手な部分を把握したりすることを重視して家庭と連携する。</li> <li>・保護者・児童のアンケートで、家庭との連携に対する肯定的な評価が80%以上になることを目指す。</li> </ul>
⑤ 体力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人の運動に親しむ習慣や体力状況に応じた授業を意図的・計画的に実施する。</li> <li>・新体力テストについて、どの種目も都平均以上を目指す。</li> </ul>



## 【目標達成のための具体的な取組内容】

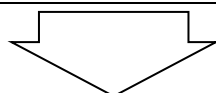
①学力基盤	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律を改善するために、学年に応じた指導について学校全体で共有を図る。</li> <li>・児童が聴く態度を身に付けるために、教師がまずはその姿勢を示し、児童の些細なつぶやきや発言に関心をもって聴くようにする。</li> <li>・あさしお教室の教員と連携を深め、学習環境を整えると同時に支援を要する児童に応じた指導が行えるようにする。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童とのやりとりが1対1にならないように一人の児童の発言を全体にも伝え、学級全体でどう思うか共有したり、意見を言ったりする場を意図的に設定し、学び合う集団作りを目指す。</li> <li>・放課後補習のあり方を見直し、学力向上につながる取り組みにする。</li> </ul>
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月三小スタンダードを日常的に確認し、学習の用意が整うように声を掛ける。</li> </ul>

②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話の進め方を指導し、対話を活用した学習活動を取り入れる。</li> <li>聞き合う取り組みを通して、受容的態度を身に付け、他者から学ぶことの良さを実感できる授業作りを目指す。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の「考えを述べる、説明する」力を付けるために各教科において書くことの日常化を図る。</li> </ul>
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア活動やグループ活動を多く取り入れて、児童が進んで発表する力を身に付けさせる。</li> </ul>

③教員の指導力	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究をはじめ、OJT を通して授業参観し合い、全教員が互いに同僚から学び合う機会を毎学期設定する。授業展開についてのコツや児童への指導の仕方などを意見交換し、個々の指導力向上につなげる。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で振り返りを大切にする。日常の授業の様子をはじめ、単元の間及び終了時にノートやミニテストなどにより児童の理解度を把握する。</li> </ul>
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人一人の発達段階や特性を十分踏まえ、適切な助言をしながら、コミュニケーションを図り、意欲を引き出す。</li> </ul>

④家庭との連携	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の学習状況をもとに、放課後の補習（算数）の取り組みについて保護者に理解を求めていく。</li> <li>保護者会や個人面談、学校便り、学年便り、ホームページ等で学校からの協力してほしいことを繰り返し伝える。またそれによる成果や課題も示していく。</li> <li>毎日の共通の宿題や自主学習の習慣が身に付けさせるために家庭学習への理解を求めていく。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科や総合的な学習の時間等で、地域や保護者と積極的に関わるような学習活動に意図的・計画的に取り組む。</li> </ul>
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との関わりについては学年として対応するように心掛け、それぞれの学級での問題や悩みも学年の教員、専科等と協力して解決を図る。</li> </ul>

⑥ 体力向上	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>バランス良く体力向上ができるように、学年毎に体力テストの結果を分析し、弱点を明らかにする。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>特にボール投げの種目では例年、どの学年も都の平均に達していないので授業においてボールを扱う運動を取り入れる際に、学年に応じて動きのコツを示しながら楽しんで取り組める内容を考える。</li> </ul>
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの学級でも体幹を鍛える運動を準備運動の段階で共通して取り入れていく。</li> </ul>



## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
① 学力基盤	学習スタンダードをもとに学習の仕方を確認してきたことで落ち着いた雰囲気での学習に取り組むことができた。聴くことについては全校朝会や集会などでも繰り返し確認してきたことで、話す人や相手に対してしっかりと目を見て傾聴する態度が身に付いてきた。	学用品や持ち物がルーズになることもあるので、個別に話をして約束や決まりを守る意義を理解できるようにしている。
② 授業改善	校内研究で取り組んだ方法の一つである思考ツールを活用することで、話し合いが上手になり、考えが広がったり、深めたりすることができた。どの授業においても、課題の把握→自力解決→グループでの交流→全体での確認という流れで取り組んだことで、どの子も個々の力を伸ばすことができた。	各自が自分なりに取り組み、分かったことや疑問点が明らかになった後のグループでの交流がうまく機能していないこともあった。互いに伝えるだけで終わることもあり、交流をさせる際の「目的」や「ねらい」を各自が明確にもつような工夫が必要である。
③ 教員の指導力	研究との関連で「対話」を重視した主体的な学びを考え、授業改善に取り組み、校内で話し合いを重ねてきたことで月島第三小の特徴を見直すことができた。自分の担当学年だけでなく9年間のまなびのつながりを見据えた指導を意識することで他学年の指導からヒントを得たり、逆に考えを伝え合ったりすることができた。	児童一人一人の課題をきめ細かく把握して指導にあたることの難しさを感じた。一人一人の成長という側面で指導すべきであるが、一斉授業時における個別の支援に課題がある。
④ 家庭との連携	今年度も保護者を学年だけでなく学級でも行うようにしたところ、学級毎の詳しい様子を担任と保護者、保護者同士が共有することができた。SCや教育相談員との連携も密にしたことで、個別対応の充実を図ることができた。	家庭学習に取り組めなかったり学習用具の準備が苦手だったりする児童に関しては、引き続き、家庭と連携して対応していく。次年度も放課後の補習という時間を定期的に設け、保護者から同意を得たうえで個別の学習支援の充実を図っていく。
⑦ その他	学期に1回、算数の診断テストの結果をもとに、学級の実態を把握してきた。それをもとに朝の「はげみタイム」や放課後補習教室等で東京ベーシック・ドリルを活用した指導を実施したことで個々の力が伸びてきた。夏季チャレンジスクールでも国語・算数の補充学習を中心に取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。	今後も学期毎に到達度診断テストを行い、各学年の定着度を調べることによって次の学年での重点指導にも生かしていけるようにする。